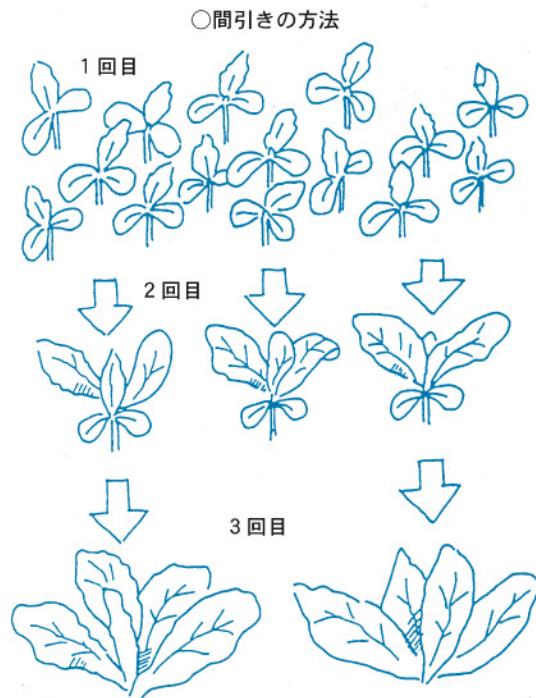


6. 間 引 き

タネが発芽したら早めに上にかけた寒冷紗や新聞紙を取り外し、苗に光が当たるようにして徒長を防ぎます。苗が小さいうちは何本か一緒に生育させるほうがよいのですが、大きくなると葉と葉が重なり合い徒長して倒れるものも出ます。そのため適切な株間に間引きを行います。

間引きは3回程度行います。第1回は本葉が出た頃、第2回は本葉2～3枚頃、第3回は本葉4～5枚頃に行い、生育につれて葉が重なり合うのを防ぎます。

間引きは、混んだところをすかせるようにし、健全な生育をしている苗を残すようにします。特に大きすぎたり、小さすぎたり、葉の形や色の異なるものも間引きます。間引く苗が接近しているときは、残す苗の根元を押さえて抜けないように注意します。



7. 誘引・仕立て

誘引は、整枝した枝を均一に伸ばすために行う作業で、早めに行うことが大切です。キュウリ、トマト、ナスなどは植え付け後仮支柱を立てて倒伏を防ぎます。

立て方には、合掌式と直立式の方法があります。合掌式は、風で倒れにくく、真夏は土が乾きにくいなどの長所がありますが、風通しが悪く、病気が出やすいなどの欠点があります。

直立式は、通風がよく、日当たりも良いのですが、風に弱いので、杭をしっかり打っておく必要があります。

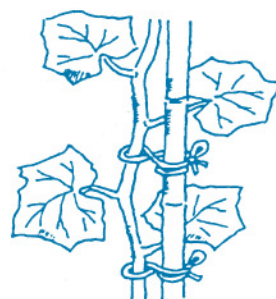
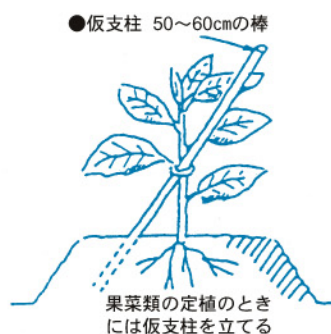
草丈の伸びるキュウリやトマなどでは1.8～2mくらい、ナスやオクラには1mくらいの長さの竹かパイプを使います。草丈が伸び、果実が大きくなるにしたがってかなりの重みになるので、補強の支えを立てて縛り、倒れないようにします。

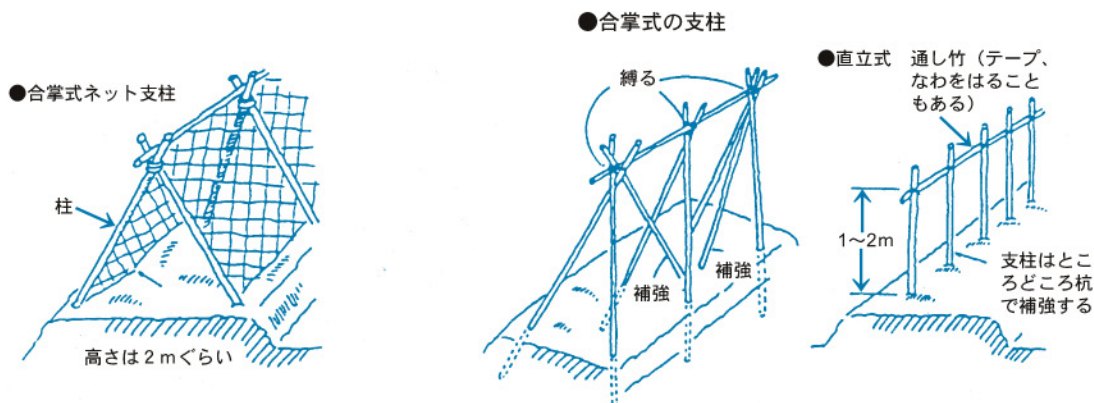
誘引作業は、余裕を持たせてゆつたりと、8の字形に紐を回して縛ります。

キュウリ、エンドウなどには、ネット（魚網でもよい）を張っておくと、伸び始めに誘引するだけで、後は自然に巻き上がっていきます。

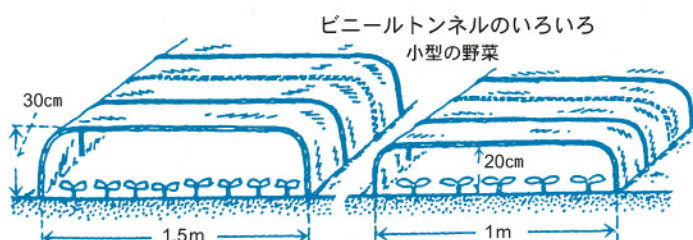
シロウリ、カボチャなど地這いで栽培するものは伸びてきたつるが動かないように木の枝や竹、針金などで止めておきます。

○結束の仕方





8. マルチとトンネル

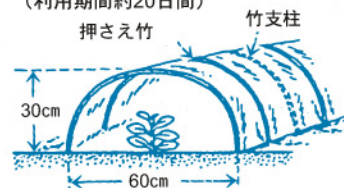


地温の確保や雑草防除、肥料や土の流亡防止などの目的でマルチを行うこともあります。これにより生育が早まったりしますが、肥料が流れない分元肥を2~3割控えなくてできすぎてつるぼけになったりするので注意します。カボチャ、スイカ、サツマイモなどには元肥を半分くらいにします。肥料の種類は、油粕などの緩効性の肥料を使うと良いでしょう。

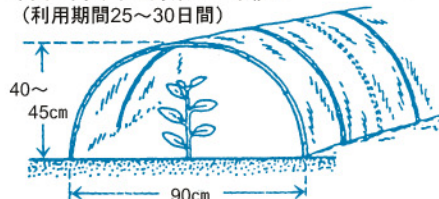
マルチは、雨の後などで土が適当に湿っているときに行いますので、乾いているときは灌水してから行います。トマト、ナス、エダマメ、トウモロコシなどには、最初にマルチをして、所定の位置に穴をあけてから、そこにタネをまいたり、苗を植えたりします。夏はマルチの上に敷ワラをして地温の上がりすぎるのを防ぎます。

もっと生育を早めるためには、トンネルをします。竹支柱を50~70センチおきに差し込んで、ビニールを張り、押さえ竹で押さえます。温度が30度以上にならないよう、風下の裾をあげて換気してやり、夜間は閉めます。換気をしなくても良いような穴があいたビニールもあります。トンネルもホットキャップも、葉が触れるようになったら、だんだんはずすようにします。

草丈の低い野菜の一条植え
(利用期間約20日間)



草丈の高くなる野菜の一条植え
(利用期間25~30日間)



二条植えのばあい
(利用期間約30日間)

